

モデル支援事業地区の活動状況

【平成18年9月30日時点】

ふりがな 活動組織名	おおはがにしちいきたからしげんほぜんきょうぎかい 大垺和西地域宝資源保全協議会
ふりがな 地区名・所在	くめぐんみさきちょう・おおはがにしちく 岡山県久米郡美咲町・大垺和西地区
地域協議会名	岡山県農地・水・環境保全モデル支援地域協議会



1. 対象地域の概要

農業地域類型	中間農業地域				
地区の類型	水田型(水田率70%以上)				
農作物	米、大豆、そば				
地区設定主要因	大字単位				
具体的設定理由 (自由記載)	自治会としてまとまっている集落を単位				
総人口	183人	うち65歳以上	84人		
農業者	147人	うち65歳以上	73人		
総世帯数	74世帯	農家数	64世帯	非農家数	10世帯
担い手等	認定農業者数	3人	経営面積	12.0ha	
	法人・組織	0	経営面積		
	集落営農	0	経営面積		
環境保全型農業	水田作戸数	44戸	面積	24.0ha	
	野菜作・果樹作・飼料作	9戸	面積	3.0ha	

2. 活動組織(規約に規定)

構成員	構成員数	74人	うち農業者	64人	うち非農業者数	10人
	農業関係団体	1団体	内訳	土地改良区		
	その他の団体	5団体	内訳	自治会、老人会、女性会、アグリカルチャー会、棚田保存連絡協議会		
代表等役職員の所属	代表	区長	事務局(会計等)	自治会		
組織づくりの気運の醸成、参加者の募集、規約づくりで苦労した点、工夫した内容	<p>○高齢化と担い手不足で、農地・水源・河川・農道の保全活動が心配される。</p> <p>○自治会長を中心に当事業を行っているが、活動は主に自治会・土地改良区、補佐的にアグリカルチャー会・棚田保存協議会が役割を決めて行い、非農家の参加も深めて活動組織の設立が合意された。それには町担当者の努力によるものと感じている。</p> <p>○集落の今後の姿は、現行の補助事業に積極的に取り組み、ホテルの復活・ため池(公園)の魚管理・里山の美観等に努力して集落環境を保ち、高齢化対策として都会住民の移住も受け入れ、事業成果を末永く保ちたい。</p> <p>○役員の選出は重複しているので、今後重複を避けるよう配慮する必要があると思う。</p>					

3. 協定の対象となる資源の範囲

農用地	田	畑	草地	計	うち中山間協定対象	計
	55.0ha	15.0ha		70.0ha		
農業用施設	用水路(開水路)	用水路(パイプライン)	排水路	ため池	農道	
	3220m			5箇所	5130m	

4. 活動計画

<p>活動によって地域が 目指している方向</p>	<p>地域全体で水路・ため池・山林・荒廃地の保全をする活動組織を設立、土地改良区・自治会・行政の指導で保全管理に取り組む。エリアごとにテーマを設定し、棚田公園にはトンボ・メダカが生息する池、花鳥ゾーンには花見や野鳥観察のできる里山、田園ゾーンには河川に500mほど遊歩道を設けてホタル観察等を可能にし、荒廃地ゾーンには再生してそばの栽培(30a)をする。これらの取り組みを通じて、農村コミュニティ活動の復活・活性化を目指す。</p>	
<p>活動の区分</p>	<p>活動の概要</p>	<p>役割分担及び参加の状況</p>
<p>基礎部分</p>	<p>計画策定(4月) 点検活動(5月) 水路の草刈(4月、5月) 農道の草刈(4月、6月)</p>	<p>自治会 農業者、改良区 農業者、老人会、女性会、自治会 農業者、老人会、女性会、自治会</p>
<p>農地・水向上活動 【実践活動取組割合】</p>	<p>きめ細やかな雑草対策(5月) 通水試験の実施(4月) 洪水後の見回り(8月) ため池の水抜きによる点検保守(11月)</p>	<p>棚田保全連絡協議会、アグリカルチャー会 改良区 改良区、自治会、農業者 改良区</p>
<p>農村環境向上活動 【選択テーマ】</p>	<p>計画策定(4月、6月) 農用地を利用した警官に配慮した作付け(8月) 水質試験の実施(7月) 生態系に配慮した施設の適正管理(7月)</p>	<p>アグリカルチャー会、自治会 アグリカルチャー会 アグリカルチャー会 棚田保存連絡協議会</p>
<p>活動計画づくりで苦 労した点、工夫した 内容</p>	<p>集落住民へ事業内容を説明するため、町役場担当者から2回説明を受け理解したのち、住民総会等で内容を徹底。また集落点検においては、高齢化率が37%以上ということもあり雑草が繁茂している所や遊休農地が多くあるが、当地域はH15年に棚田保全のためにアグリカルチャー会を設立し、地域住民参加で活動を行ってきた。そこで環境保全型農業と棚田保全を行うための農村型観光農業を行う必要が大と思われ、今年から棚田保全支援隊事業に取り組み、当事業と併せて新しい事業に取り組み始めたことが確認された。</p>	
<p>市町村との協定締結 において苦労した 点、工夫した内容</p>	<p>本地区は特に狭小な農地が多く、筆数が多いため、対象農用地の確認に労力を要した。</p>	

5. 活動の実践

活動の実践において苦労した点、工夫した内容

生態系保全のため池(棚田公園)にメダカ・フナ・ハエを入れて観察が出来るようにしたが、サギの被害で魚類は全滅し、一方、水が冷たいためアオミドロの発生で池にハス以外は入れない状況で今後の課題。河川の遊歩道と清掃によるホタルゾーンは、今年の11月頃より工事に入るのでH19年には現在いるホタルも多く飛ぶことが出来ると思われる。広報活動については、棚田広報で観光客も多くなり、公園も子供連れのお客さんが増えている。棚田保全支援隊においては、新聞・テレビ等で広報されたおかげで地域住民と隊員の交流も作業を通じて深まり地域が活気づいてきた。今後は棚田公園・花鳥ゾーン里山も3年後にはサクラ・モミジ・ケヤキも大きくなり、ホタルも増え、最盛期を迎える頃には老齢化が進んでいるとも言えども活気づく地域となると思う。

代表的活動又は特徴的活動の写真



活動計画会議



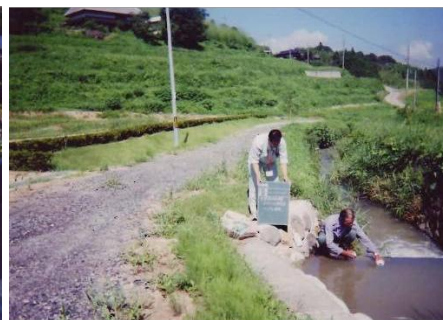
水路・農道の草刈り・清掃



施設の点検



休耕田そば播き



水質検査



電柵の設置

6. 情報発信

情報発信への取り組み状況

【地域で作成している広報資料等の写真】

【本地区の活動を紹介しているサイト】

7. 支援交付金の使途【9月30日時点(支出済額+支出見込額)】

(1) 活動区分別の内訳

	基礎部分	農地・水向上	農村環境向上	活動組織運営費	合計	
予算額	860千円	750千円	350千円	242千円	2202千円	
	39%	34%	16%	11%	100%	

(2) 活動区分毎の使途別内訳

	労務費	機械経費	物材費	外注費	その他経費	
基礎部分	320千円 15%	420千円 19%	40千円 2%	0千円 0%	80千円 4%	
農地・水向上	330千円 15%	20千円 1%	150千円 7%	200千円 9%	50千円 2%	
農村環境向上	150千円 7%	0千円 0%	50千円 2%	150千円 7%	0千円 0%	

8. これまでに受けた指導・助言

地域協議会、NPO等からの組織づくり、計画づくりに当たった具体的な指導・助言	地域協議会(県、町、県土連)からの指導助言 ○モデル支援事業の制度の内容、必要な手続き、点検・機能診断の概要等説明
--	--

この地区の活動に関するお問い合わせ先

岡山県農地・水・環境向上モデル支援地域協議会(事務局)
 TEL 086(225)0921
 FAX 086(226)0068
 e-Mail: info@okadoren.or.jp